昭和45年7月14日第3種郵便物認可　年4回（1・4・7・10月の）10日発行（送料とも＝1部90円・年ぎめ360円）

ベルマーク新聞
ベル®
2015年
秋季号

発行所
公益財団法人
ベルマーク教育助成財団
東京都中央区築地5-4-18
汐留イーストサイドビル7階
〒104-0045
電話　(03)5148-7255
郵便振替口座00100-7-56035
大阪事務所
大阪市北区中之島2-3-18
朝日新聞大阪本社内
〒530-8211
電話　(06)6231-0131
ダイヤルイン (06)6201-8031
名古屋事務所
名古屋市中区栄1-3-3
朝日新聞名古屋本社内
〒460-8488
電話　(052)221-0306
福岡事務所
福岡市博多区博多駅前2-1-1
朝日新聞福岡本部内
〒812-8511
電話　(092)482-0260

©ベルマーク教育助成財団　2015

ベルマーク新聞は、どなたでも自由に購読できます。1部90円、年ぎめ360円（送料、消費税込み）。参加団体の購読料は会費に含まれます。

ベルマーク®
http://www.bellmark.or.jp

被災校「前へ」懸命

震災前の生活 なお遠く

学校の「記憶」どう「記録」

▼4面＝写真グラフ「元の生活いつ」
▼6・7面＝東北3県被災校リポート

間借り校舎に仮設校舎。あるいは改修が終わって元の本校舎に戻れたとはいえ、狭く不自由な仮設住宅から遠距離のバス通学。そして、在籍する子どもたちの数の激減に悩む学校……。

東日本大震災から4年7カ月がたちました。復興へのツチ音が続いています。でも、子どもたちの学びと生活が、元通りになったわけではありません。

「震災前に流れていた時間を取り戻してやること」。被災地の校長は、日ごろそう心がけていると言います。

ベルマーク財団はこれからの支援について探るため、岩手・宮城・福島3県の被災校を9月に訪ねました。いまなお厳しい現実と、明るく前へ進もうとする懸命な姿がありました。

本校舎での生活を経験しないまま卒業する中学生がいます。震災直後に入学した小学生は、はや5年生です。先生たちも異動します。「つまり、いま自分が通っている学校が震災の時どうだったのかを見ていない児童生徒、教職員が多いのです」と語るのは、宮城県小学校長会の荘司貴喜会長です。

学校として当時の状況をどう記録して残すか。教訓をいかに学び、伝えていくか。「『記憶』から『記録』へ。これからはそれが大事になります」。荘司会長はそう話しています。

「顔晴（がんば）ろう！　大熊っ子」に向けて、熊町小・大野小の児童全員で応援練習。雨雲を吹き飛ばすような元気な声が体育館に響きました＝福島県会津若松市

支援ありがとう メッセージ続々

ベルマーク財団が支援した大震災被災校やへき地校から「ありがとう」のメッセージがことしも続々届いています。

今も仮設住宅があって校庭が使えない宮城県気仙沼市の大谷小学校の礼状には、仮設グラウンドでの運動会などの写真を添え、「復興を担う子どもたちが元気でたくましく成長していけるよう、努力し続けたい」とありました＝写真。

沖縄県石垣市の川原小学校からは、児童18人のかわいいメッセージカードをいただきました。

財団ホームページでも紹介しています。

小倉屋柳本 10月末脱退

マーク4月末まで有効

「マルヤナギ」ブランドの大豆食品でおなじみの株式会社小倉屋柳本（ベルマーク番号89）が、10月31日で協賛会社を脱退します。

同社のベルマークは、6カ月後の来年4月30日まで有効です。5月1日以降の財団到着分は無効になりますのでお気を付け下さい。

同社は、1994年に協賛会社となり、「からだに良い大豆を毎日食べよう」と蒸し豆シリーズや、煮豆シリーズなどにベルマークをつけてきました。

これで協賛会社は58社となります。

166校に設備品贈る

財団 へき地校は100校復活

ベルマーク財団は今年度も、全国のへき地校などに設備品を贈る援助をしました。1960年の財団発足から続く、ベルマーク運動の原点となる活動です。2012年度から2014年度までは、東日本大震災被災地校への支援に重点を置いたため、へき地校は70校を対象としてきましたが、今年度は100校と従来の規模に戻しました。そのほか、養護学校20校、盲学校17校、ろう学校21校、病院内学級4校、海外学校4校を援助しました。

▼2面に贈呈校一覧、7面に「和太鼓ドドン」

へき地校には、学校が希望する30万円相当の設備品と朝日ジュニア学習年鑑を贈りました。養護学校にも希望する教材・設備品を、盲学校には拡大読書器、ろう学校にはプロジェクター、院内学級にはパソコンと学習用ソフトを贈りました。海外の学校には希望を聞いて、計50万円相当の設備品を贈ります。

へき地校には「走り方教室」「一輪車講習会」「理科実験教室」「アート教室」などの出前授業や、ミュージカル公演への招待などソフト面での援助も用意しています。

ベルマーク運動では、運動参加団体（PTAなど）がベルマーク預金でお買い物をした際、品物を売った協力会社が代金の10％をPTAに戻し、それをPTAがベルマーク財団に寄付します。この「割戻し寄付金」が、へき地校などの支援の元手となっています。

昨年度のベルマークによるお買い物総額は約5億1500万円。割戻しの結果、約5200万円の支援資金が生まれ、それがすべてへき地校や特別支援学校、震災被災地校への支援に使われます。

自分の学校のためにした買い物が、困っている学校の援助にもつながる。この、いわば一石二鳥のシステムがベルマーク運動の特長です。へき地校などへ贈る品物には、「お母さんとお友だちからの贈り物です」というシールを貼って届けています。

ベルマーク大使 創設

55周年を機に財団 運動の意義・魅力PR

1960年に始まったベルマーク運動は、今年で55周年になります。ベルマーク財団はこれを機に「ベルマーク大使」を新たに設け、運動の拡大をはかっていきます。

Bellmark Ambassador

へき地の子どもたちの援助という当初の目的は多様になり、特別支援学校や災害被災校、海外にも支援を広げてきました。また、全国で2万8千近い学校・団体が活動しています。

そんな「ベルマーク」には、たくさんのサポーターやファンがいます。

そういう方々に「大使」になっていただき、運動の意義がより理解され、活動のすそ野が広がるよう、一役買ってもらおうというものです。

ベルマーク運動に理解と関心のある個人、グループや企業、団体の代表に「大使」を委嘱し、委嘱状と「大使」バッジ＝写真＝を用意します。その活動は写真やエッセーなどで随時発信していただき、財団ではホームページやベルマーク新聞で紹介していきます。

「ベルマーク大使」の第1陣は来年1月にお知らせする予定です。また「自薦」「他薦」の受け付けも検討します。

ベルマーク運動参加学校PTA

総数	27，672
幼稚園	5，159
小学校	14，617
中学校	6，486
高校	1，410

＊高校には大学・公民館を含む

都道府県ごとに サポーター紹介

企業・団体名HPで

ベルマーク運動の趣旨に賛同し、マークを継続的に収集してベルマーク財団へ送っていただいている企業・団体を「ベルマークサポーター」と呼んでいます。財団のホームページで全国のベルマークサポーターの名前を都道府県ごとに紹介しています。

協賛会社あいおいニッセイ同和損害保険のベルマークサポーターは9月末現在、2745企業・団体にのぼっています。

それぞれが収集したベルマークは、あいおいニッセイ同和損害保険の社員たちが業務の合間に仕分け・集計して、毎年、ベルマーク財団へ送付しています。

ベルマーク活動の体験 発表するPTAを募集

八王子・東浅川小「私たちも」

毎年5～6月に、ベルマーク運動の説明会が全国100カ所近い会場で開かれます。そこで活動の体験を語ってくださる学校・園をベルマーク財団では募っています。

「私たちでよければ体験発表をしてみたいと考えています」と声を寄せてくれたのは東京・八王子市立東浅川小学校（平賀克明校長）のPTAベルマーク部（代表・木村由美子さん、23人）です。

ベルマーク運動に参加したのは2012年4月で歴史は浅いのですが、日々の活動を盛り上げていくきっかけの場にできれば、と考えたそうです。木村さんは「今年の説明会での体験発表に感動しました。私たちも東浅川小ならではの発表を工夫したい」と話しています。

説明会に参加するのは、年度が替わって新たにベルマーク活動に取り組む方たちがほとんどです。活動のコツや工夫、成果、ときには失敗談もまじえ、参考にしてもらおうという趣旨です。

形式や内容は自由で、時間は10分程度です。学校の紹介、ベルマーク委員の決め方、ベルマーク回収・仕分け・集計の方法、地域の協力の求め方など、何でも結構です。

ぜひ積極的に手を挙げてください。

◇

お申し込み・問い合わせ＝ベルマーク教育助成財団・広報部（電話）03・5148・7253

お買いものガイド後期号届けます

「お買いものガイド」の今年度後期号（№109）が発行されました（B5判64ページ）。ベルマーク預金で買える協力会社15社のおもな商品や購入方法を案内しています。すべての運動参加校・団体にお届けします。

「ガイド」で紹介しているのはごく一部の商品で、載っていないものもたくさんあります。協力会社が扱って、「教育環境の充実」に役立つものなら何でも買えます。財団お買いもの係や協力会社にお尋ねください。

表紙の写真は、東京都町田市立町田第一小学校の子どもたちが図書室で本を楽しむ光景です。ベルマーク預金で今年、人気の科学マンガ「サバイバル」シリーズをはじめ、一挙に56冊を買いそろえました。児童全員から「ベルマークで買ってほしい本」のアンケートをとり、それをもとに本を選んでいます。

ベルマーク 発送早めに

ベルマーク財団には例年、年度末の3月に全国からベルマークが集中して送られてきます。点検作業に時間がかかり、点数の確定が2～3カ月先になってしまいます。そこで財団では、年を越す前になるべく送っていただくようにお願いしています。

マークを送る時期や回数は自由ですが、できれば早めの発送をご検討ください。

また、全国のPTAのベルマーク預金口座には、使われていない残高が18億円相当もあります。これをお買いものに使えば、その金額の1割が学校支援資金としてベルマーク財団に寄付されます。へき地校や被災校などに息の長い支援を続けるためにも、預金を眠らせておかずに積極的にお買いものをお願いします。

（ベルマーク教育助成財団）